文部科学省「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」委託事業

書写指導サポートブック

～横浜のこれからの書写指導～

横浜市教育センター

はじめに

新学習指導要領が告示され、改めて「伝え合う力を高める」ことの重要性が示されました。「伝え合う力」を支え、相手や目的に応じて書いて伝えるための知識・技能が「書写力」であると言えます。

ところが、小中学生の「書写力」に心配の声が聞かれます。鉛筆の持ち方、書く姿勢、字形等、指導の必要性を感じることもあるのではないでしょうか。

本冊子には、書写指導を充実させるためのアイディアがたくさん掲載されています。

例えば、入門期の指導、毛筆学習に欠かせない用具の準備や後片付けの指導、子どもが主体的に課題解決に取り組むための指導の工夫、生活に生きる書写等、実際の書写指導に役立つ内容になっています。

子ども自身の気付きを大切にした書写指導を目指したいと考えます。

編集に当たっては、横浜市教育センターの「書写実技研修事業」、横浜市小・中学校国語教育研究会書写事業部で蓄積された書写指導の実践事例をもとに、できるだけ具体的に指導の手だてを提示するようにしました。

本冊子が、横浜の子どもたちの「書写力」の育成に役立つことを願っています。どうぞ日々の指導に御活用ください。

なお、本冊子は、文部科学省「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」委託事業の一環として、作成いたしました。

鉛筆を正しくもつとどんないいことがあるの？ 筆は毎回洗った方がいいの？ 自分のめあては、どうもたせたらいいの？ そんな素朴な疑問にお答えします。

書写指導力向上の鍵

横浜国立大学　青山　浩之

1　これからの書写指導

小・中学校の書写は、子どもたちの日常的な書字活動を支えるねらいから、国語科の〔言語事項〕に位置づけられてきました。新学習指導要領では、これまでの〔言語事項〕が〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改められ、他の事項と同様、書写もその中に位置づけられることになります。これからは、言語文化や国語の特質といった観点から、従来の〔言語事項〕の指導をより一層充実させ、子どもたちの言語活動をさらに豊かなものにしていくことが目指されます。書写指導においても、書くことや文字の文化を伝え、書いて伝え合う活動を支える指導の充実を図っていくことが求められます。

2　日常の書写力を向上させる鍵

子どもたちの日常の書写力を高めるために、まずは、基礎・基本の習得を確実に図り、それらを生活の中で活用できる力へと高めていくことが必要です。

書写における基礎・基本とは、①姿勢・執筆法（持ち方）、②筆使い、③筆順、④字形、⑤配列・配置（字配り）といった学習の要素ともいえるものです。これらは、学習指導要領の指導事項に、各学年段階を踏まえて示されています。こうした学習要素に対して、ただ練習を繰り返せばよいという指導のとらえ方では、子どもたちの書字に対する意識は高まりません。指導に当たっては、一つ一つ要素を積み上げながら、「何のために？」「誰のために？」といった問いかけも必要です。姿勢や筆使い、筆順は、書きやすさにつながり、自分自身のためにとらえさせたい要素です。字形、配列は、読みやすさにつながり、相手と自分との関わりの中でとらえさせたい要素です。文字や言葉を書き表すことについて深く考え、相手や目的に応じて書く意識を高めながら、「伝え合う力」を支える書写力を育成していくことが大切です。

3　書写の授業改善と課題解決学習

新学習指導要領においても、毛筆の指導は、硬筆の書写力の基礎を養うよう指導するという考え方が示されています。毛筆を使用して「筆圧などに注意して書く」「穂先の動きと点画のつながりを意識して書く」といった事項などが新たに加わりましたが、このような書く過程を重視した毛筆の指導により、日常の硬筆書写力を向上させる観点が具体的に示されたことになります。字形指導を重視するあまり、点画を書き進める技能の指導が疎かになっては、なめらかに筆記具を用いる書字動作も身に付きません。子どもたちの日常に生きる書写力をどう支えていくのかを十分考慮した指導の改善が望まれます。

また、知識や技能を習得する過程には、子どもにとって様々な課題が生じます。これらの課題を解決していくことこそ、豊かな学びの原点です。自分の書いた文字を、基準となる文字教材と比較し、自分で修正（自己批正）したり、他者と学び合ったりする書写の課題解決学習を通して、書写力ばかりでなく、思考力・判断力・表現力といった広い意味の学力を育成することにもつながります。

4　新学習指導要領（抜粋）
〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

	小学校			中学校		
	第１学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	第１学年	第2学年	第3学年
(2)書写に関する事項	ア　姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 イ　点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。	ア　文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 イ　漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 ウ　点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。	ア　用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 イ　目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 ウ　毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。	ア　字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 イ　漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。	ア　漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 イ　目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	ア　身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。
内容の取扱い	硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第３学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間 30 単位時間程度を配当すること。			ア　文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。 イ　硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。 ウ　書写の指導に配当する授業時数は、第１学年及び第２学年では年間 20 単位時間程度、第３学年では年間 10 単位時間程度とすること。		

さあ、書写指導をはじめましょう

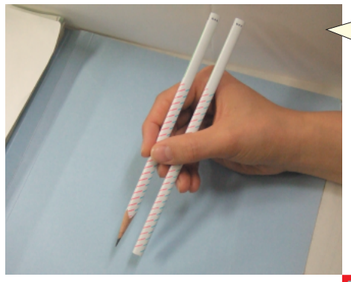
- 書き方の基礎・基本を確かめよう ～硬筆入門期の指導～ ①
- 準備と片付けを効率よくしよう ～毛筆学習の準備と片付けの工夫～ ②
- 毛筆学習の過程をおさえよう ～毛筆入門期の指導～ ③
- 子どもの主体的な学習をつくろう ～書写の課題解決学習の工夫～ ④
- 速く書く力を伸ばそう ～中学校行書学習の指導～ ⑤
- 書写の学習を発展させよう ～書写の生活化とカリキュラムの工夫～ ⑥

書き方の基礎・基本を確かめよう

～硬筆入門期の指導～

1 鉛筆の正しい持ち方をしっかり指導しましょう

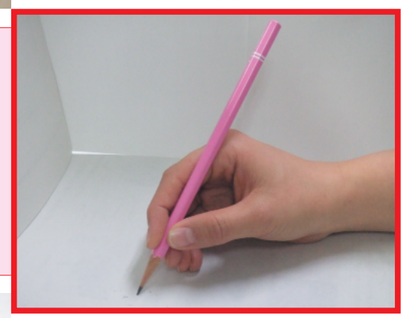
・鉛筆の濃さは2B程度がよいでしょう。



お箸をもつように

正しい鉛筆の持ち方は、正しいお箸の持ち方と共通します。
まず、お箸を持つように、鉛筆を2本持ちます。下の鉛筆を抜くと正しい鉛筆の持ち方になります。

＜正しい持ち方＞



正しい持ち方をすると、

① 指先を動かしやすく、楽に書けてスピードもアップ
② 書いているところが見えるので、姿勢もくずれない
③ 長い時間書き続けても疲れにくい

＜正しくない持ち方＞

正しくない持ち方をすると
①力が入りすぎてしまい、指先が動かしにくく、楽に書けない。
②書いている文字が見づらくなる。

（持つところが下すぎて、人差し指の上に親指が乗って、握り込んでしまっている状態）

鉛筆を囲んでいる3本の指が三角形になっていたら合格です。
親指・人差し指・中指の3本でしっかり鉛筆をささえます。

2 楽な姿勢で書けるように指導しましょう

・鉛筆の持ち方が正しくなると、自然に姿勢も良くなります。

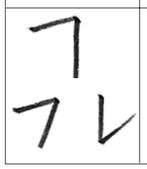
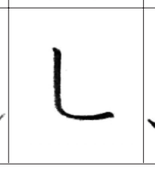
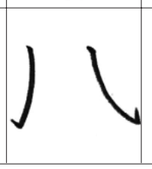
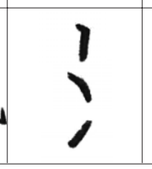
① 足裏は床につける
② 背筋はまっすぐ伸ばす
③ お腹と机・背中と背もたれの間に握りこぶし一つ分ずつ入るくらい空けて座る
④ 鉛筆を持たないてのひらで紙をおさえる

姿勢がよいと、肩やひじも力まず指先の運動に集中することができる
▼
疲れずに、書字しやすい

体が傾いているので、長い時間この姿勢はとても疲れます。

3 読みやすく、整った正しい文字を指導しましょう

①基本点画をおさえましょう

おれ	まがり	そり	てん	とめ	はね	はらい	むすび
							

☆三年生からの毛筆学習へつながる指導です。画の終わりや画の途中に注意して指導するとよいです。

②筆順を確実にしましょう

・一画ずつ色で区別　・番号をふる　・空書き

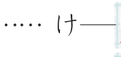
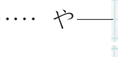
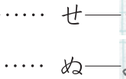
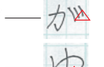
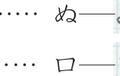
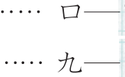
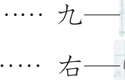
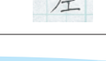
＜筆順の大原則＞　上から下へ　（例　三↓　言↓）　左から右に　（例　川→　順→　）

③字形の仕組みをおさえましょう

中心	外形	長短	画と画の間	方向
接し方	**交わり方**	**左右**	**上下**	**内外**

☆やってみましょう、子どもが書くことに興味をもつような指導
（ア）「はね」を指導するときは、児童と一緒にジャンプ！
（イ）てのひらや、体を筆代わりにして一画一画を書き進めることを意識させる。
（ウ）拡大した文字の一画一画をパズルにして組み立て、字形の仕組を知る。

4 つまづきやすい点に注意して指導しましょう

・はねの向き（次の画に向けて）……	け— 	こ—	さ—
・画の向き ……	や— 	タ—	日—
・画の長さ ……	せ— 	が— 	
・画の交わり方 ……	ぬ— 	ゆ—	女—
・画の接し方（横画と縦画のつき方）……	ロ— 	日—	
・まがりとそり（混同しやすいもの）……	九— 	見—	気—
・筆順（正しい筆順と字形との関係）……	右—	左— 	

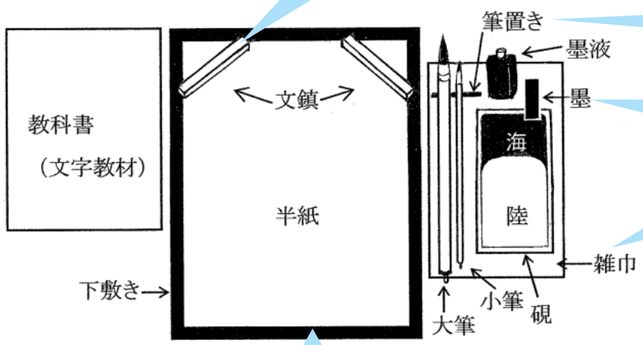
準備と片付けを効率よくしよう

～毛筆学習の準備と片付けの工夫～

1 用具・用材の準備

① 机上

2点でおさえると、書く文字や文字数に合わせて文鎮を置くことができます。



紙を折って作ってもよいです。

墨がぬれた状態で硯につけておくと、貼り付いてしまったり、乾燥したときに割れやすくなったりすることがあるので、墨を拭き取っておきましょう。

セットの箱ごと出す場合には、硯の下に必ず雑巾を入れ、こぼれた墨を吸い取れるようにしておきましょう。

下敷きは、しわになると書きにくいので、しまい方に気をつけます。

※ 左ききの場合は、硯などを左側に置く方が便利です。

② 墨

硯の陸（おか）に少量の水を入れて墨をすり、海（うみ）に溜めます。それを繰り返し、必要量の墨をつくると、硯のまわりに墨がこぼれることなく、速くすることができます。

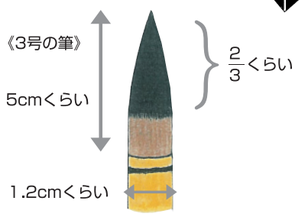
硯に接する面が丸くなったり、斜めになったりしないように、工夫してすります。（墨の持ち方、動かし方に注意します。）

（良くない例）

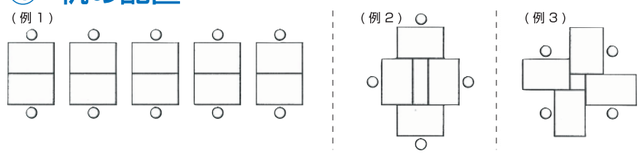
※墨をするときも、墨液を使うときも、濃さに気をつけましょう。

③ 筆

・白い毛（羊）…柔らかい毛の場合、使いこなしにくいこともあります。
・茶の毛（馬・狸・鹿 等が混ざる）…硬めで使いやすいです。

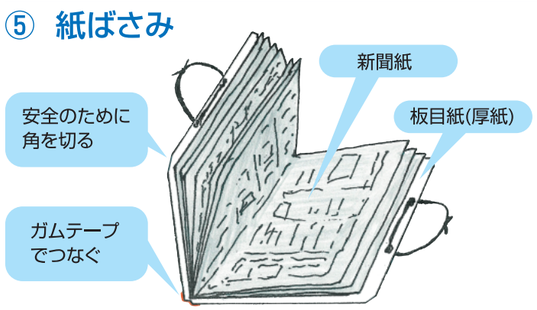


④ 机の配置



子どもへの支援の際、教師の動線がスムーズになるように机の配置を考えます。子どもが互いの書き方について見合ったり、話し合ったりできるようにすると効果的です。

⑤ 紙ばさみ



紙ばさみを作り、書いたものを入れるところ、未使用の紙を入れるところ、既に展示した「まとめ書き」を整理する「書写ファイル」(P.7・4で紹介)を入れるところ等を決めておき、机の横のフックに掛けて使用します。
「書写ファイル」は、ビニルの袋に入れておくとよいです。

※「まとめ書き」…学習の最後に書いた半紙。その時間の課題を書きまとめるという意味で「まとめ書き」と呼びます。

2 片付け

・硯は、墨をふき取り、家庭に持ち帰って洗うようにします。
・筆は、各自100ml～300ml のペットボトルに水を入れておき、その中で洗って筆掛けに干しておくとよいです。
・教室に常に全員分の筆があると、学習の開始がスムーズです。
・墨代わりに水を使い、半紙代わりに水書用紙や濃い色画用紙（乾かして何度も使えます。）を使うと朝自習も可能になります。
・小筆は、ぬらした紙で墨を拭き取ります。
・汚れた水は、ペットボトルの口から排水溝に直接流すようにします。流しは、最後に必ず洗剤で墨を洗い流しておきます。

《筆掛け》 段ボールの箱を利用します。

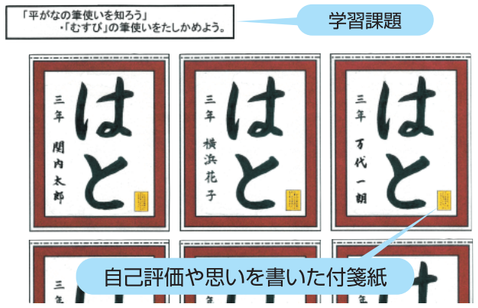
班毎に1本の棒に通しておくと便利です。

風通しをよくします。

墨がたれてもよいように、底をしっかり閉じておきます。

3 展示

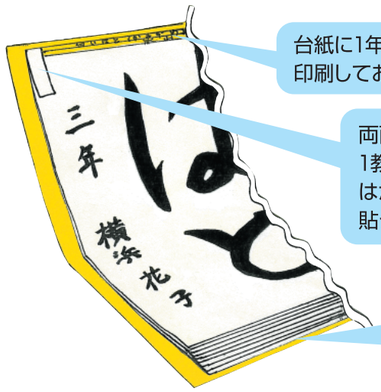
・作品づくりをしているわけではないので、文字教材ごとに設定された学習課題が分かるようにしておきます。
・各自の自己評価や思いも、付箋紙で伝えられるような工夫が大切です。
・何枚も貼り重ねて展示することは避け、展示した「まとめ書き」は、「書写ファイル」に整理し、学習の積み上げができるようにします。



強弱両面テープ（貼ったりはがしたりできるもの）を色画用紙につけて台紙にしておくと、「まとめ書き」の貼り替えができます。

クリアポケット（ビニル袋でもだいじょうぶです。）に入れます。

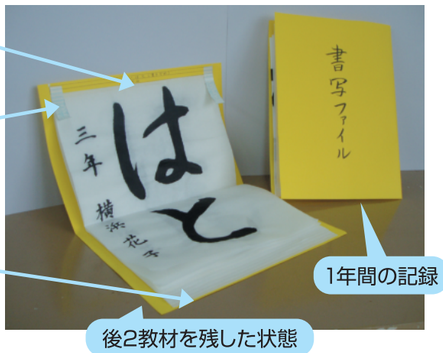
4 書写ファイル



台紙に1年間の教材の貼付位置を印刷しておきます。

両面テープを貼っておき、1教材分ずつはく離紙をはがして「まとめ書き」を貼っていきます。

1枚目が台紙からはみ出ないように位置を決めます。



1年間の記録

後2教材を残した状態

自己評価とともに、「まとめ書き」をファイルし、書写の時間に学んだことや、自分の課題を積み上げることによって、学習に継続性が生まれます。また、学習を振り返りながら、各自の書写力の伸びを確かめるポートフォリオとしても役立ちます。

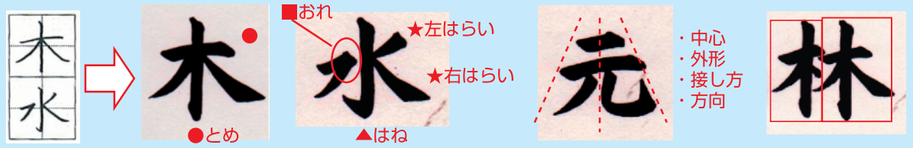
毛筆学習の過程をおさえよう

～毛筆入門期の指導～

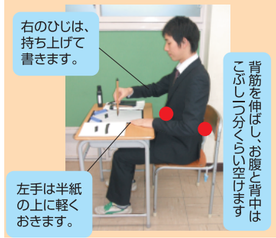
1 毛筆学習の効果と基本的な指導事項

毛筆の学習では、毛筆の特徴を生かし半紙に大きく書くため、とめ、はね、はらいなどの基本点画の筆使いが理解しやすくなります。また、文字の形を正しく整えて書くための正しい姿勢、正しい構えが意識化されます。

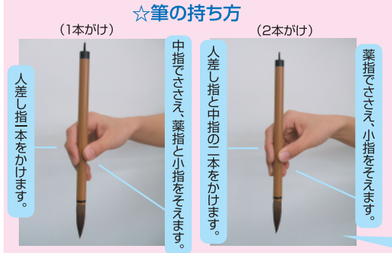
① 筆使いのポイントを確かめやすい ← 筆で書くと → ② 文字の整え方のポイントを確かめやすい



☆正しい姿勢と構え

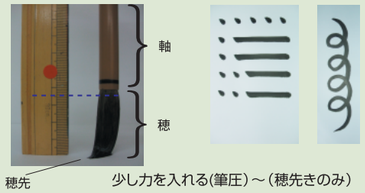


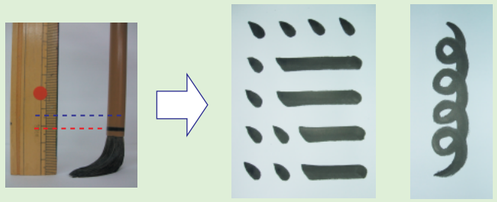
☆筆の持ち方



＊小筆は鉛筆の持ち方と同じなので、硬筆と関連させて指導します。

☆筆圧の違いによる線の変化





強く力を入れる～(穂の2/3くらい)

軸と手首をまわさないで書くことがポイントです。

2 一単位時間の基本的な流れ

課題解決学習ということを念頭におき、一単位時間の学習の流れを考えることが大切です。
この文字を学習することで、子どもたちにどのような力をつけるのかを明確にし、
そのための手立てを工夫しましょう。

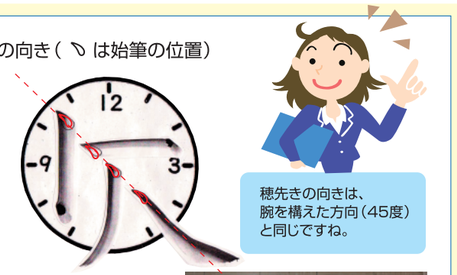
展開例	【A案】 まず、めあてを意識しよう ～最初からめあてをきちんと意識して課題解決を図りたい時～	【B案】 まず書いてから、課題を明らかにしよう ～気づきを大事にし、課題をより明らかにして課題解決を図りたい時～
①めあてを ②基準を 知る（理解） ↓ 解決するために 見る（観察） ↕ ①知るために ②解決するために 書く（実験） ↓ 生かすためのまとめ （検証・発展）	1 教材の確認 2 目標の把握 ・本時のめあてを知る。 3 試し書き（1枚） ・筆順を確認する。→教科書を見ながら書く。 4 自己批正①【課題を見つける①】 ・試し書きしたものと教科書を比較する。 ・赤鉛筆で課題を○や△、線や文字で記入する。 5 基準の把握【課題解決のための方法を知る】 ・めあてを達成するために大事なことを考える。 6 練習用紙で基準の練習【課題解決を図る①】 ・かご字や骨書きプリントなどで、個の課題に応じて練習する。 7 練習 ・教科書を見ながら基準や課題を意識して練習する。 8 自己（相互）批正②【課題を再確認する②】 ・自分（友だちと）で書いた文字を批正する。 9 まとめ書き【課題解決を図る②】 ・基準や自分の課題を意識してまとめ書きする。 10 自己評価 ・試し書きとまとめ書きを比較する。 ・めあてが達成できたか確認する。 11 硬筆への発展【硬筆に生かす】（p9参照） ・毛筆で学習したことを硬筆に生かす。 12 本時のまとめ・成果と次時の課題を確認する。	1 教材の確認 2 試し書き（1枚） ・筆順を確認する。→教科書を見ないで書く。 3 自己批正①【課題を見つける①】 ・教科書と比較して課題を確認する。 4 目標の把握 ・本時のめあてを知る。 5 基準の把握【課題解決のための方法を知る】 ・めあてを達成するために大事なことを考える。 6 練習用紙で基準の練習【課題解決を図る①】 7 練習 8 自己批正②【課題を再確認する②】 ・教科書と比較し、基準を意識して書かれているか確認する。 9 相互批正【課題を再確認する③】 ・友だちと批正し合う。 10 まとめ書き【課題解決を図る②】 ・明らかになった課題を意識してまとめ書きする。 11 自己評価 ・試し書きとまとめ書きを比較する。 ・めあてが達成できたか確認する。 12 硬筆への発展【硬筆に生かす】（p9参照） ・毛筆で学習したことを硬筆に生かす。 13 本時のまとめ ・成果と次時の課題を確認する。

3 おさえたい書写用語

入門期から、「点画の種類」や「始筆」「送筆」「終筆」「とめ」「はね」「はらい」などの書写用語を指導に取り入れ、子どもも使えるようになることが大切です。

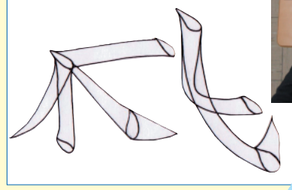
★始筆（しひつ）～書き始めのこと
漢字の場合、基本的に10時半（45度）の方向
★送筆（そうひつ）～筆を送る過程のこと
★終筆（しゅうひつ）～書き終わりのこと

☆穂先の向き（ ↘ は始筆の位置）



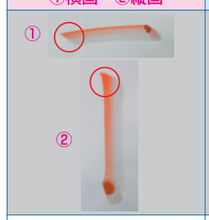
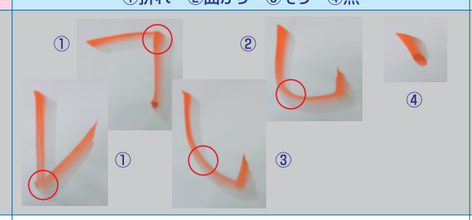
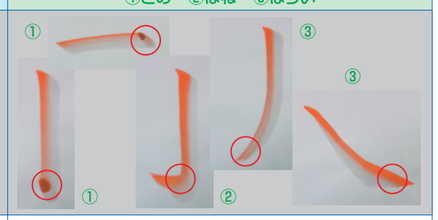
穂先きの向きは、腕を構えた方向（45度）と同じですね。

（下）↘ は筆の位置



4 硬筆につながる基本点画の種類と筆使い

基本点画の種類と筆使いを学習の中でしっかりおさえることが、今後の学習や日常生活に生きてきます。

始　筆	送　筆	終　筆
①横画　②縦画	①折れ　②曲がり　③そり　④点	①とめ　②はね　③はらい
		
① 45度の方向に筆を下ろし、軸を回さず力をゆるめないで横に運ぶ。 ② 45度の方向に筆を下ろし、そのまま軸を倒さず真下に運ぶ。	①（上）横画を受けて筆を一度止め、そのまま下へ運ぶ。 （下）縦画を受けて筆を一度止めてから、右上へ運ぶ。 ＊ 横（縦）画の終筆を縦（横）画の始筆とする。 ② 送筆の半ばで速さと力をややゆるめ、丸みが出るようにゆっくり曲げる。 ③ 大きな円の一部を描くように、軸を回さず筆を運ぶ。 ④ 点は短い画の一つで、45度の方向に筆を下ろし、短く引く。	① 送筆を受けて筆を止め、穂先の方へ押し戻すようにして、始筆と同じ45度の方向で止める。 ② 画の終筆部で穂の腹の部分を内側に少し入れ、一度止めてから穂先をまとめながら左上にぬく。 ③（上）穂先をまとめながら、左方向にはらう。 （下方向のはらいもある） ③（下）軽く入れて止め、だんだん力を加え、筆を一度止める。穂先をまとめながら、右へはらう。

5 硬筆との関連指導

毛筆で獲得した書写力を、日常の硬筆に生かす学習指導を心がけていきましょう。

○毛筆学習のまとめの時間に、本時で学習したことを生かして書ける硬筆学習を設定し、関連を図ります。

（例１）
① 毛筆で「大」を学習する。
★ ◎ 右はらい
○ 左はらい
○ 横画をつかむ
→ ② 本時のまとめに硬筆で「大」を書く。
＊ 点画を意識した文字
＊ 子どもの文字感覚の育成

（例2）
① 毛筆で「林」を学習する。
★ ◎ 文字の組み立て
○ 点画の方向
○ 交わり方をつかむ
→ ② 本時のまとめに硬筆で「林」、「竹林」（「林」のつく熟語）、「林の中に入る」（「林」を含む文）などを書く。
＊ ★をより意識した文字
＊ 同じ要素をもつ漢字への応用

○学校行事や日常生活に密着した内容、国語科や他教科と関連する内容などを積極的に学習に取り入れ、書写力の日常化を図りましょう。
（例）パンフレット、招待状、係のポスター、依頼・お礼の手紙、報告文、年賀状

子どもの主体的な学習をつくろう

～書写の課題解決学習の工夫～

個の課題につながる評価

単元の始めに行う「試し書き」と単元の最後に行う「まとめ書き」を比較します。

2つを比較することで、子どもが学習の成果を自覚することができます。黒板に並べて貼ると比較をしやすくなります。

★自己評価の仕方

①単元の評価規準をもとに子ども自身がめあてを設定する。
②子どもが何をどう自己評価すればよいか、具体的に示す。
③自己評価カードを工夫し、子どもが容易に自己評価できるようにする。

〈カード例〉

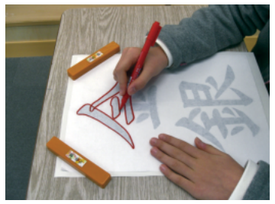
自己評価カード
文字の組み立て方「仲間」

	試書	まとめ書き 自分	まとめ書き 友達
「にんべん」よりも「中」の幅が広い。	△	○	○
「日」が「門がまえ」の中におさまっている。	△	○	◎

★課題解決学習を意図した評価の考え方

書写の時間にも、他の時間と同じように本時目標があります。
子どもたちが本時目標を達成できるための手立てを考えましょう。
そのために、毎時間の評価は文字の形の良し悪しにとらわれるのではなく、試し書きからまとめ書きの間に本時目標が達成できているかを見ます。

1 書写は課題解決学習です めあてを実現するために工夫をしましょう



文字教材は、教科書を拡大し、B4サイズで印刷します。
文字教材の上に半紙をのせて、赤いサインペンを使って作ります。

練習用紙の工夫

教師が用意したものを使ったり、子ども自身が文字教材を見て作ったりします。自分の課題に合ったものを選んで作ることで、課題を解決していくことができます。

練習方法の工夫

○分解文字の操作

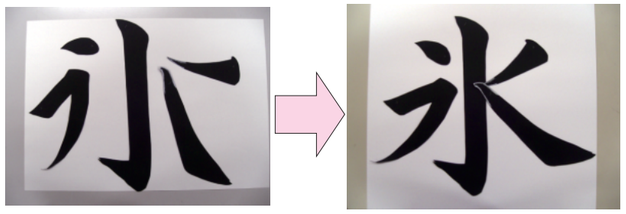
分解された点画を子どもが組み立てる。

↓

点画の接し方や文字の組み立て方を視覚的にとらえることができる。

★分解文字の作り方と使い方

黒板用 … 一画ずつ分けた文字教材を拡大コピーして切り抜き、色板磁石や厚紙に張り合わせる。
個人用 … 一画ずつ分けた教材文字を全員分印刷し、一人ひとり切り抜き、筆順に従って組み立てる。



○水書用紙の活用

半紙程度の大きさで、表面は水書板と同じもの。

↓

・筆の道筋がよく分かる。
・乾けば何回も練習できる。

教具の工夫

☆ 毎時間活用したいもの

・水書板 … 筆の運びが視覚的に分かり、何度でも使用できる。
・空　書 … 自分の手を筆と見立てて空中で筆順を確認する。
・板　書 … 色分けの工夫ができる。

☆ 活用したいもの

・OHC
・プロジェクター
・DVDビデオ教材
・CD-ROM（練習用紙や手本などのデータが入っています。）

☆ 常に掲示したいもの

○ 掲示用掛け図
・正しい姿勢・執筆の写真
・漢字表（中心線が示されたもの）

2 書写の学習を生活に広げましょう

学習を始める前に

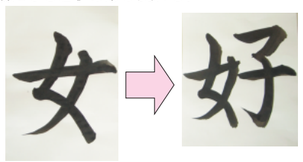
★今まで学習してきたことを振り返り、もう一度学習したいことを選びます。
（5年）
・文字の組立て方
・ひらがなの字形と行の中心
・文字の大きさ
・字配り

学習を発展させる

生活に広げる

文字の組立て方（左右）

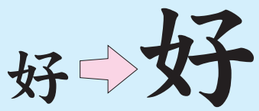
〈学習したこと〉
偏になると字の形が変わる。



偏のつく他の字を探し、書きたい字を選びます。

健　好
仲　境
銅　相　など

文字の見本を作り、練習をします。
（例）
教科書体活字を拡大コピーする。必要であれば、更に肉付けをする。

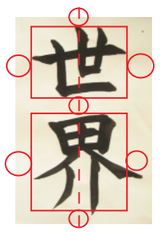


学級目標・個人のめあて・書き初めなどに応用できます。
【文字見本】【今年の目標を漢字で】

文字の見本作りができるようになると活動が広がります。

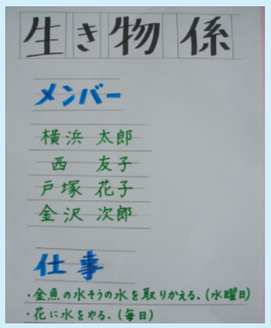
字配りを知ろう（書き初め）

〈学習したこと〉
文字の大きさ・中心・字間・余白に気をつける。



手紙・カード・掲示物などに応用できます。

字間に気をつける
文字の大きさを変える
文字の太さを変える



補助線（中心線・外形など）を鉛筆で薄く引く
上下・左右の余白に気をつける

書き初めの掲示方法

千代紙
1～2cmくらい
※千代紙を貼ることにより、印象が大きく変わる。
1～2cmならば、コストも低く抑えられる。

ポイント

「書写」が生活に生きるためには、何を学習しているのかをとらえ、それを、日常の各場面に活用することが大切です。書写の時間で学習したことを意識しながら書く活動を行うと、見やすく整った文字や文章を書くことができます。

④

速く書く力を伸ばそう

～中学校行書学習の指導～

1 小学校書写から中学校書写へ

☆★小学校の学習ポイント★☆

小学校での学習の継続に加え…

中学校での＋α

1.姿勢・用具の持ち方…P4・8参照

2.基本点画と筆使い…P5・9参照 → 2.行書の筆使いへ

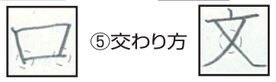
3.筆順…P5参照 → 3.行書の筆脈を意識した学習へ

4.字形 → 4.行書の字形学習へ（行書になっても基本構造は変わりません。）

- 全体　①中心　②外形

- 基本点画の組立て方　①長短　②画間　③方向

④接し方　⑤交わり方



- 部分の構成法　①左右　②上下　③内外

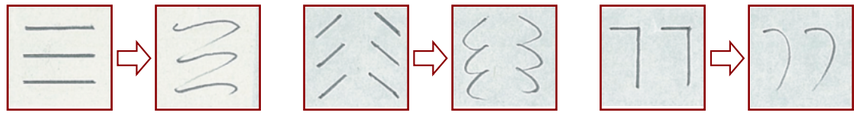
5.配列　①字間②行間③文字の大きさ（字配り）…P11参照

2 行書の指導の進め方

行書は点画を連続的に書いた書体で楷書に比べ文字を速く書くことができます。
文字を書く機会や量が増え、書く速さも求められてくる中学生にとって学習が必要な書体です。

ステップ1　行書学習を始めましょう（線の連続・点画の丸み）

①形や線を実際に速く書いてみる。→線を連続させたり、点画を丸くすると速く書けることを知る。



②自分の名前を一筆で速く書いてみる。→むやみに連続させると読みにくく、かえって速く書けない。

速く、読みやすい文字を書くために、まずは行書の基礎的な書き方を理解しましょう。

ステップ2　楷書と行書の違いをとらえましょう

展開例（楷書と比較して特徴をとらえる）

1）既習の楷書の学習を思い出しながら「空想」を楷書で書く。
2）課題を見ながら「空想」を行書で試書する。
3）楷書と行書の違いで気づいたことを発表し合う。
4）行書の特徴を確かめる。

行書の特徴　筆脈の連続　①点画の連続　②点画の丸み　③点画の方向や形の変化　④点画の省略（⑤楷書と異なる筆順）

＊筆脈とは…点画を書き進める際の気持ちのつながり

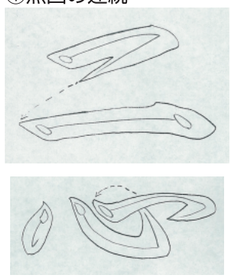
評価B）楷書と行書の字形の違っている部分を指摘できる。
評価A）楷書と行書の違いを特徴をあげて指摘できる。

5）まとめ書きをする。

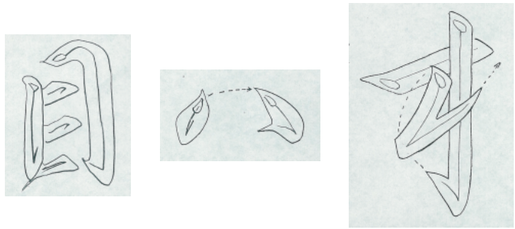
ステップ3　部分ごとに行書の筆使いを確かめましょう

＊「空想」の部分の筆使い（筆脈）をかご字や骨書きを用いて確かめる。

①点画の連続



②点画の丸み　③点画の方向や形の変化　④点画の省略



ステップ4　実際に課題を書きながら行書の特徴を理解しましょう

評価は、書道の作品としてではなく、その時間に学習するべき課題（行書の特徴）ができているか見取り、評価をします。

①点画の連続

【課題例】　課題の目標:「三」「里」の横画の連続。

評価B　・横画の連続ができている。
　　A　・筆脈が意識された横画の連続になっている。

②点画の丸み

【課題例】　課題の目標：「白」の3画目、「夜」の6画目の「折れ」。筆を止めず角張らないように折る。前後の横画、縦画の曲線化も意識して書く。

評価B　・「白」の3画目、「夜」の6画目の「折れ」の丸みができている。
　　A　・筆脈と点画の連続が意識され、「白」「夜」全体が丸みを帯びて書けている。

③点画の方向や形の変化

【課題例】　課題の目標：「未」「来」の左払い。払いきらずに、次の画に向けて軽くはね出す。
「未」の右払い。払わずに軽く止める。
「来」の右払い。払わずに方向を変えてしっかり止める。

評価B　・左払い、右払いの形や方向が変化している。
　　A　・点画の連続や丸みが意識され、左払い、右払いの形や方向も変化している。

④点画の省略

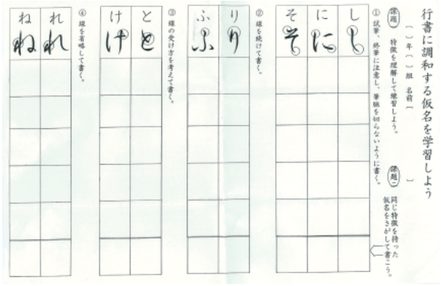
【課題例】　課題の目標：「神」の「しめすへん」、「秘」の「のぎへん」を省略した形で書く。
偏から旁へつながる筆脈を意識して書く。

評価B　・「神」の「しめすへん」、「秘」の「のぎへん」が省略した形で正しく書けている。
　　A　・「神」「秘」の偏から旁の筆脈がつながるように書けている。

⑤

ステップ5　行書に調和する仮名を学習しましょう

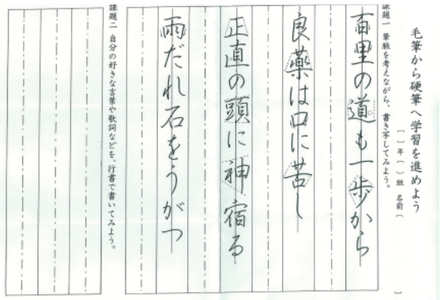
仮名は一字単独で扱われるものではないので、漢字に調和させることを意識して、学習を進めていきます。
ワークシートとしては他にも「漢字仮名交じりの文章を書く」等が考えられます。



〔指導の流れ〕
①これまでに学んだ行書の学習を想起する。
②行書に調和する仮名の書き方を考える。
③部分的に対照しながら練習する。
④ポイントとなる箇所について相互評価する。
⑤同じ特徴を持った文字を探す。
　①「てろ」②「らな」③「ちせ」④「わも」など
〔評　価〕
評価B　行書に調和する仮名の特徴を理解し、書くことができている。
評価A　同じ特徴を持った仮名を探し、書くことができている。

ステップ6　毛筆から硬筆へ学習を進めましょう

行書の特徴を生かして硬筆で書きます。これまで毛筆を使って学習してきた行書の特徴を、硬筆に生かすことを学びます。ワークシートには実生活に結びつく「はがき」や「手紙」等も効果的で、筆記具はボールペンやサインペン、万年筆なども利用できます。



〔指導の流れ〕
①筆脈を意識して漢字や仮名を書く。
②文字の大小や中心を考えて書く。
③行書とそれに調和する仮名の特徴を生かして、
　自分の好きな言葉などを書く。
〔評　価〕
評価B　行書とそれに調和した仮名の特徴を理解し、
　　書くことができている。
評価A　自分の好きな言葉などに応用して書くことができている。

＊様々な漢字を行書で書く時には、点画を連続させるパターンを応用していきます。

・点からの連続

・横画からの連続（横画から横画）

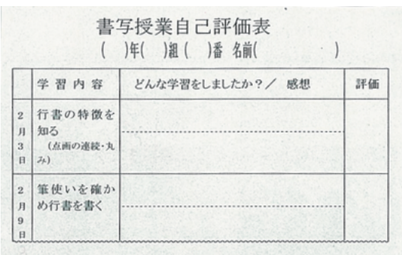
（横画から払い）

・折れから横画への連続

・払いから横画への連続

〔評価カード例〕

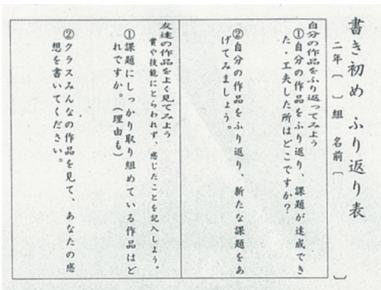
［学習課題に対する継続した自己評価表］



書写授業自己評価表
(　)年(　)組(　)番 名前(　　)

	学習内容	どんな学習をしましたか？／感想	評価
2月3日	行書の特徴を知る（点画の連続・丸み）		
2月9日	筆使いを確かめ行書を書く		

［書き初め課題に対する自己・相互評価表］



書き初め　ふり返り表
二年（　）組　名前（　　）

自分の作品をふり返ってみよう
①自分の作品をふり返り、課題が達成できた・工夫した所はどこですか？
②自分の作品をふり返り、新たな課題をあげてみましょう。

友達の作品を よく見てみよう
書や技能にとらわれず、感じたことを記入しよう。
①課題にしっかり取り組めている作品はどれですか。（理由も）
②クラスみんなの作品を見て、あなたの感想を書いてください。

書写の学習を発展させよう

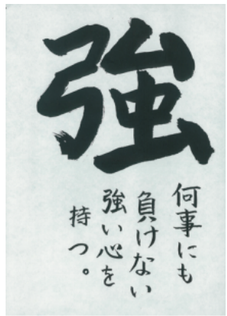
～書写の生活化とカリキュラムの工夫～

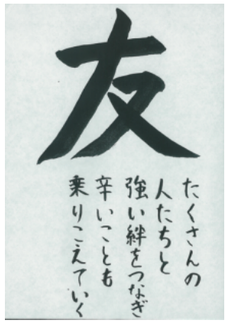
1　書写の生活化をねらいとした発展学習

生活の中で使う様々な形式を理解し、目的に応じた用具や書体を選び、文字の大きさや配列・配置に気をつけて書きます。

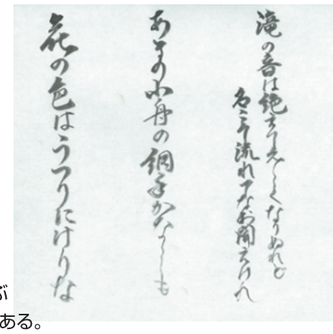
○毛筆で書く

《ねらい》・目的に応じ書体を選び、調和よく書く。　・生活の中に書き文字を生かす。





自分の考えや目標を字配りを考えて書いてみる。
正しく伝える目的をもつ場合は楷書で丁寧に書く。

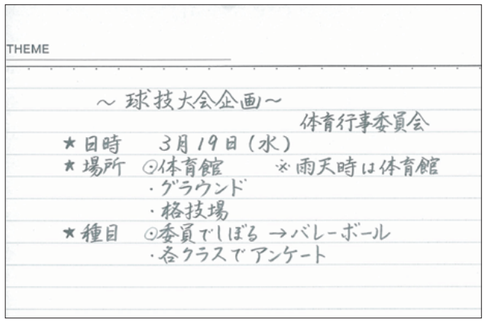


百人一首は和歌を学ぶ上でも、書写を学ぶ上でも効果的な課題である。
文字に対する興味・関心を高めながら、これまで学習してきた行書を使って、百人一首の札を作るのもよい。

○いろいろな筆記具を使って書く

《ねらい》・適切な用具や書体を選び、筆記具の特徴・紙質や文字の大きさ、太さを選ぶ。
　　・行の中心や行間を考え、余白や調和を意識して伝わりやすく書く。

日常の活動や学校行事の中で、目的や相手意識をもって書く。
学級目標・学年目標・案内表示・プログラム・垂れ幕・看板・応援旗など
＊正確に伝えたい場合は楷書が効果的。

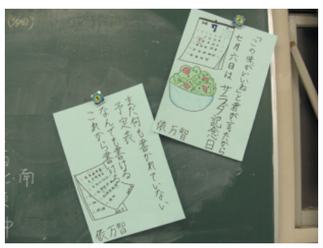


学校行事・校外学習など、様々な場面で言葉を選び、目的に合わせて書く。議事録・会議メモ・卒業文集・表紙など。
＊メモをとるなど速く書き取りたい場合は行書が効果的。

2　カリキュラムの工夫

国語の授業とリンクさせた書写活動。
50分授業の中の10分を
書写として扱うなど、工夫することも可能です。

・板書の視写　　行書の特徴をとらえて速く正確に書く。
・レポート・会議　形式を整えて読みやすくまとめて書く。
・古典（硬筆）　　整った文字を書くことに心がけて視写する。
・詩・短歌・俳句　仮名との調和・字配りを考えて短冊や色紙を作る。



書写指導

平成19年度書写指導パンフレット作成委員

監　修

横浜国立大学教育人間科学部　准教授　青山　浩之

委　員

日野南小学校	校長　若林　健一	南戸塚中学校	校長　舘野　俊雄
吉原小学校	教諭　本多　真理子	三ツ沢小学校	教諭　板橋　美智恵
上郷小学校	教諭　大島　協子	太尾小学校	教諭　武田　明美
小田小学校	教諭　深谷　規美子	洋光台第一小学校	教諭　武藤　裕子
今井小学校	教諭　内田　美咲	二ツ橋小学校	教諭　齋藤　喜久恵
藤塚小学校	教諭　戸成　芳子	原小学校	教諭　花井　緑
屏風浦小学校	教諭　佐藤　知子	南舞岡小学校	教諭　足立　麻美
港南台第一中学校	教諭　宍倉　美佐	上永谷中学校	教諭　野村　洋子
境木中学校	教諭　村本　千佳子	宮田中学校	教諭　中村　浩美
市ヶ尾中学校	教諭　馬場　美幸		
研究研修指導課	指導主事　中込　千明		
研究研修指導課	指導主事　平井　佳江		

平成19年度　文部科学省「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」委託事業

書写指導サポートブック～横浜のこれからの書写指導～

平成20年3月　発行

編　集　横浜市教育センター研究研修指導課　　住　所　〒231-0031　横浜市中区万代町1-1

発　行　横浜市教育センター　　印刷所　日栄印刷株式会社